



尾間木中だより

学校教育目標
豊かな心を持ち、
たくましく生きる生徒

平成 29年 12月 1日 第8号

〒336-0926
電 話
F A X

さいたま市緑区東浦和4-29-1
048-874-9733
048-810-1127



『みんなで伸びる 尾間木中』の今



校長 堀 田 明 良

10月30日から吹き始めた木枯らしが、赤や黄色に彩られた桜やハナミズキの葉を散らしていきました。登下校時にマフラーや手袋を着用する生徒も増え、冬が確実に近づいてきたことを実感します。

11月も尾間木中学校の生徒達は様々な場面で立派な姿を見せてくれました。11月20日に行われた市教育委員会計画訪問では各教科の研究授業、公開授業で明るくそして真剣に授業に参加する姿を見せてくれました。3年生からバトンタッチを受けた生徒会活動は、1、2年生の新生徒会本部役員、各生徒委員会の委員を中心に、12月7日に予定されている生徒総会に向け準備を進めています。その中で体育委員会では「いじめ撲滅キャンペーン」の一環として11月9日の昼休みに全校でジェンカを踊る企画を立ててくれました。多くの生徒と先生方とで楽しい昼のひと時を過ごせました。

スポーツ面でも活躍が見られました。サッカー部は3年生主体のチームが高円宮杯第29回全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会県大会を勝ち上がり、中体連チームでは唯一関東大会に出場しました。中体連チームの出場は現在の試合形式になってから埼玉県では史上初の快挙だそうです。関東大会でもJ1傘下のクラブチームに負けたものの善戦しました。また、県新人体育大会にはサッカー部、ハンドボール部、女子バスケットボール部、陸上競技部、相撲が出場し、どのチームも健闘しました。さらに、市特別支援学級合同スポーツ大会ビーチバレーボールの部では6校の予選リーグを5戦全勝で突破、決勝トーナメントに進出、見事さいたま市ベスト8という過去最高の結果を残しました。長距離走男子3,000mの部も木元健翔君が7位に入賞しました。

私の個人的な意見ですが、尾間木中の生徒達を見ていて感心することのひとつに、学校で行われている様々な教育活動に対する参加意識が高いということがあります。授業でのグループ討議や討議の報告内容を聞いていたり、保健体育の授業の始めに行う集団走や「オマロビ(尾間木中エアロビクスの通称)」の合間の掛け声が、グラウンドや体育館から職員室にまで聞こえてきたりすることでわかります。さらに、授業以外でも学校・学年行事にも積極的に取り組んでいるほか、日頃の給食、清掃の取り組みも生徒委員がリーダーシップを発揮することによりクラス内での協力体制がつくられていますし、他の生徒委員も学校生活向上のためよく取り組んでいます。また、部活動の試合を見に行くと、選手は当然一生懸命やっていますが、控えの選手、ベンチに入っていない部員も一生懸命応援していますし、選手のサポートに関わる多様な仕事も、嫌な顔をせずその意味を理解して黙々とこなしている生徒が多いです。このような学習活動以外の取り組みを通じて、物事に対する意欲や粘り強さ、感情を自分で調整する能力などの情動的資質・能力や、対人関係を調整する能力やコミュニケーション能力などの社会的スキルなどの非認知的能力が育成されます。非認知能力の重要性は今では広く認識されていて、幼児教育の根幹にされていたり、「非認知能力も学力である」と主張する教育学者もいたりするほどです。

今回は生徒の良い点をたくさん書かせていただきました。これは生徒自身がよく努力しているのはもちろんですが、多くの保護者、地域の皆様方などの関係各位のご理解ご支援の賜物でもあります。このことに感謝申し上げるとともに、これからも学校の課題を解決し、学校教育目標達成に努めてまいりたい所存です。



「教育に秘法があるとするなら、それは生活を尊重することである。」

(エマーソン アメリカの詩人、思想家)

